

## 公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	鎌倉あけぼの園			
○保護者評価実施期間	2025年11月1日 ~ 2025年11月29日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数)	16
○従業者評価実施期間	2025年11月15日 ~ 2025年11月29日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年12月1日			

## ○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者の特性に合わせた支援活動プログラムの発案。	一人の職員のみの考え方で固まらないよう、職員で分担しながら活動の意見を多く出し合い、活動内容の幅を広げています。 それぞれのレベルに合った内容になるよう、一つの工作してもレベル分けを行い対応しています。	利用者の様子を見ていると、工作の見本がわかりやすく可愛く仕上がっていると積極的に参加してくれているように感じるため、今後も見本からごだわって準備を行っていきたい。グループを分けて活動できると、より一層活気のある活動が行えるため、室内でも部屋を分けるなどして対応できるよう環境設定をしていきたいと思います。
2	立地を生かした地域活動や外出プログラムの取り組み。	海から貝殻を拾って工作に使うことや、秋には公園からどんぐりを拾って工作に使うなど自然を感じられる内容に取り組んでいます。 また、地域活動の取り組みとして「ビーチクリーン」を行いゴミ拾いを積極的に行ってています。	外部の方々との関わりは少ないと感じているので、今後少しでも多くの方に「あけぼの園」を知ってもらう機会を増やして行きたい。 イベントなどを今まであまり行ってこなかったので、今後は保護者の方や、一般の方も参加できるようなイベントも行っていきたいと思います。
3	児童指導員歴を重ねたスタッフの割合が多く、安心のできる支援をおこなえること。	職員間に壁を作らないよう環境設定をしています。 日々の支援の中で不安に感じることや相談したいことなどを、遠慮せずに情報交換することを意識しています。 経験年数関係なく支援の仕方について意見交換を行えているのは、日々会話をする機会が支援時間外でも多くあるからかと思います。	職員同士の壁を作らずみんながチーム一丸となって支援ができるよう、日常会話もしつつ関係を良く築いていきます。 支援の取り組みについてのすり合わせを、事の大小関係なく、よく話し合ってより良い支援を行っていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	イベント交流の機会の少なさ。	一般の方や、保護者の方が参加できるイベントが今まで計画されていなかった。 職員同士の意見の出し合いもできていなかったため、イベントを行える余裕も無かったと考えます。	イベントを計画的に行い職員含め保護者同士の交流の場を増やしていきたい。全体で行うイベントにすると大掛かりになってしまうことも考えると、グループ分けを行い数名ずつの参観日を設けるなどの工夫をしていきたい。
2	支援室の境目がバリアフリーでない。 壁の経年劣化が目立つ。 死角が多くある。	建物の作りが、新聞屋さんだったところをリフォームしているためどうしても構造が良くなく死角がある部屋がある。年数も経っていることから、壁の経年劣化が目立ちます。補修はしているが限界がある。	死角になる支援室は今は使っていない。 今後環境改善（グループ分け支援を行う）をしていく中で死角がしてしまう部屋を使用する用途を職員間でよく話し合いを行う必要があると思います。支援室の境目にガラスの窓があるため、利用者が解放しないなどのルールを作る必要があります。
3	トイレが狭く一つしかない。	トイレが一つしか無いため、トイレ渋滞が起こる。 我慢できる利用者は良いが、できない利用者にとっては良くない環境である。 介助者にとってトイレ内も狭く動きにくい。	排泄の訴えがある前に声掛けを行い、帰りの会の前などに渋滞が多く発生しないよう工夫している。リフォームなどの工事の予定は現時点では未定なため、今後も工夫して対応していく必要があります。 介助の視点からみても、狭い環境だと十分に支援が行き届かないことも考えられるため、数年計画で検討していきたい。